

共に生きる ～過去、現在、そして未来へ～

学校所在府県：大阪府	指導時数：5時間
学校名：枚方市立東香里中学校	対象学年：中学1年生6クラス
名前：酒井 美規子（英語）	中学3年生7クラス
実践教科：道徳・英語・総合	対象人数：1年生226人 3年生243人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

多様性と異文化理解をテーマに、経済発展している様子・生活・貧富の差・人種など、ブラジルのありのままの姿を見て、生徒たちに伝えていきたいと考えて参加した。しかし、ただブラジルを知ることだけではなく、事前・事後研修も含めて多くのことを得ることができた研修であった。

ブラジル滞在中は多くの機関を訪問させていただき、素晴らしい人々に出会えた。環境・教育・貧困などさまざまな問題に取り組み、発展するブラジルのパワーだけではなく、ブラジルに進出する韓国・シンガポールなどの新興国のパワーも感じた。その中で、日本はどのように世界の市場で勝負していくのか、そしてそれを担う子どもたちに何が必要なのかを考えた。また苦難の時代を生き抜いてきた日系移民の姿から、日本で薄れつつある日本人としての誇りや良さを改めて考えさせられた。

帰国後は、ただ単にブラジルのことを知ってほしいという思いだけではなく、違いを尊重する姿勢を育むことや、人や物のつながりを知り、自分たちの生活を見つめ直すことを目指して授業を考案した。事前・事後研修を含めて学んだ実践方法や、参加者同士の意見交換を含めて、今回の研修参加は貴重な経験になった。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

目的は3つである。1つ目はブラジルを通して、日本が世界とつながっていることを知ること、2つ目は互いに違いを認め、尊重する姿勢を育むこと、3つ目は奴隷や農業、移民の歴史や多文化の背景を学ぶことで、自分たちの豊かな生活を見つめ直すことである。

「外国なんて行かないから英語とかどうでもいい」と思う生徒もいる中で、世界の諸問題や暮らしがどのように自分にも関係のあることとして捉えられるかを考え、可能な限り生徒にとって身近にあるものを使った。また授業形態も、様々な意見を尊重してほしいという思いから、班活動や話し合いなど自ら考えて意見を言う場面を多く作るように心がけた。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 ブラジルの概要を知る	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルの概要を学ぶ。 ●モノを通して、ブラジルの作物や文化を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルクイズ ●ブラジルで入手したモノ ●ふりかえりカード
2時限目 多様性と移民の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な人種が入り混じっていることを知る。 ●サンバ・サッカー・野菜・カカオのルーツを通して多民族の歴史を考える。 ●ブラジルにある日本を知り、日系移民の歴史を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジル人の写真 ●日本的なモノの写真 ●5分でわかる日本・ブラジル移民交流100年の歴史(映像) ●スライド ●感想シート
3時限目 農作物のつながりと活用法	<ul style="list-style-type: none"> ●農作物のルーツから多文化についての知識を深める。 ●身近にある物の歴史やルーツ、日本と異なる使われ方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●カカオ・コーヒー・さとうきび・胡椒・キャッサバの写真・説明カード ●スライド

4 時限目 私たちに できることは？	●チョコレートの原料となるカカオ豆の生産の背景を知る。 ●アグロフォレストリーについて学ぶ。	●3種類のチョコレート ●世界が100人の村だったら (DVD) ●日系移民のインタビュー映像
5 時限目 日本と世界のつながり	●ブラジルで働く日本人 ●日本と世界のつながりを考える。	●インタビュー映像 ●ダイヤモンドランキング

3. 授業の詳細

1 時限目：ブラジルの概要を知る

ねらい…ブラジルについて、基礎的なことを学ぶ。

モノから想像し、ブラジルについて興味や疑問を抱かせる。

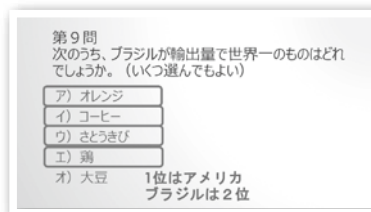
◆内容◆

- ① ブラジルクイズ…位置・国旗・人々・言語・農産物・宗教などブラジルの概要をクイズ形式で学ぶ。
- ② これは何でしょう？～モノを観察して想像する～ (6～7人の班で活動)
アサイー・カカオ豆・コーヒー豆・ピラルクの鱗・サンバの笛・カピンドウラード (金の草)・タカカの器を観察する。ブラジルの文化や日本にあるものの意外な元の形 (カカオ) を知る。
- ③ 観察したものの予想を班ごとに発表
- ④ 振り返りカード…印象に残ったこと・感想・もっと知りたいことを書く。

👉 ココがポイント!

▶ ブラジルへの導入として、「日本でも見かけるけれども少し違うものや意外なもの」からブラジルを身近に感じ、興味を抱かせるようにした。

<使用教材> スライド、ブラジルで入手した7種類の物



② 観察したコーヒー豆、鱗、カカオ豆、アサイー

① ブラジルクイズ

生徒の反応

- ▶ モノランゲージでは匂いや触り心地、かたさなどを観察し、さまざまな予想を立てていた。また同じものを観察していても、班員同士での意見交流、あるいはクラスでの班ごとの発表でそれぞれの答えが異なっていることがわかり、「あー！」「なるほど。」など他の意見への関心が感じられた。

生徒の感想

- ▶ クイズ形式でわかりやすくブラジルのいろんなことが知れて良かった。楽しかった。
- ▶ ブラジルのいろんなものを観察するのが楽しかった。
- ▶ あんなにくさい物がカカオ豆だったことがびっくりした。
- ▶ カカオ豆が全然チョコレートのにおいがしないことにびっくりした。
- ▶ コーヒーが有名なことは知っていたけど、オレンジ、サトウキビ、鶏も有名なことは知らなかった。
- ▶ 日本では考えられない物がたくさんあったので、全然文化が違うなと思った。

◆所感◆ クイズと観察の両方の活動を通して、それぞれの意見や考えの違いを大切にしたいと思って授業を行ったが、生徒たちは柔軟な発想力でさまざまな予想をしていた。ブラジルというとサッカーやサンバというイメージが強かったが、ブラジルについての知識は広がったと思う。日本でも見かけるもので、ブラジルに関わりがあるものを取り上げたため、生徒の関心は高く、今回紹介したものの以外にも知りたいという意見も多く出た。

2時限目：多様性と移民の歴史

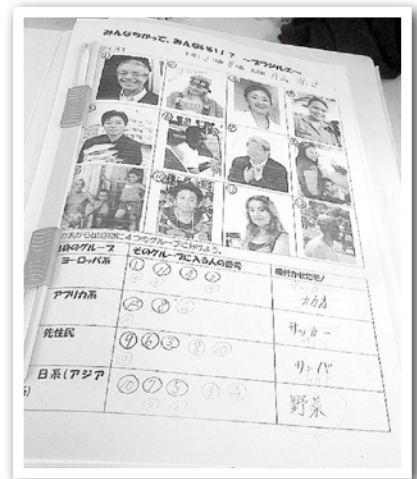
ねらい…ブラジルが多文化を尊重して発展してきたことに気付く。
日本とブラジルのつながり、日系移民の歴史を学ぶ。

👉👉がポイント!

▶ ブラジル人の多様性やそれぞれの良さを知ることを通して、「みんなちがって、みんないい」ということを意識させる。

◆内容◆

- ① 誰がブラジル人でしょう?…ブラジルには多様なルーツを持つ人がいることを知る。
- ② ブラジル人のルーツ…①で紹介したブラジル人の写真を見ながら、班でヨーロッパ系・アフリカ系・日系・インディオ系の4つに分類し、班ごとに答えを発表させる。
- ③ マッチングクイズ…サッカー・サンバ・チョコレート（カカオ）・野菜はどのルーツの人がブラジルに根付かせ、発展させたのかを考える。
- ④ 5分でわかる日本・ブラジル移民交流100年の歴史（映像）とクイズ…日系移民の歴史について学ぶ。
- ⑤ どっちがブラジル?どっちが日本?…ブラジルの中にある日本のものを知る。
- ⑥ 感想シートの記入…「多文化であること」について考える。



プリント

<使用教材> プリント、ブラジル人の写真カード、スライド、映像



①の活動で使用した
ブラジル人の写真▶



生徒の
反応

▶ 事前のアンケートでは、ブラジル人は黒人系という印象を抱いている生徒が多かったため、ブラジル人が多様な人種から成り立っていることを知り、意外そうな反応を示していた。班活動や話し合いの中では班ごとに、あるいは個々で様々な意見が出されていた。人物写真を見てルーツを考えるとときには、ただ人を観察するだけでなく、周りの風景や場所にも興味を抱いている様子であった。

考える生徒たちの様子



生徒の感想

- ▶ 日本人に見えるのに、日本人じゃなかったりしたから、とてもビックリした。
- ▶ 昔の人が厳しい世の中でもがんばってくれたから、今があるんだなと思った。感謝しないといけないなと思った。
- ▶ ブラジルにはさまざまな人が住んでいることやブラジルと日本の歴史を知れておもしろかった。根付かせたものもたくさんあって、他に何かないのかなと思った。
- ▶ ブラジルにはたくさんの人々がさまざまな形で住んでおり、十人十色という言葉がぴったりだと思いました。
- ▶ 日本人たちやヨーロッパ、アフリカの人たちが行ったから、ブラジルがあるんだなと思いました。
- ▶ 日本人はブラジルに150万人いることが印象に残りました。ブラジルに一回行ってみたいと思いました。

3時限目：農作物のつながりと活用法

ねらい…身近な食べ物の背景を知る。

農作物を通して、ブラジルの歴史を考える。

◆内容◆

- ① マッチングクイズ…カカオ・コーヒー・さとうきび・胡椒・キャッサバの写真とその歴史を説明したカードをマッチングする。
- ② クイズ…カカオ・コーヒー・さとうきび・胡椒・キャッサバの秘密を知る。
- ③ カカオの成り立ち…カカオの花から出荷までの写真を順に並べ替え、次回のチョコレートにつなげる。
- ④ チョコレートランキング…フェアトレードチョコレート・アグロフォレストリーチョコレート・森永のダース（ガーナのチョコレート）からどのチョコレートを買うかランキングをつける。また買う基準を確認する。

ココがポイント!

- ▶ 身近な食べ物を通して、日本と世界の間につながりがあることを知る。



①で使ったコーヒーの実の写真とカカオの写真



②クイズ



④で使ったチョコレート。実物を見せて選ばせた。

生徒の反応

- ▶ チョコレートランキングでは、事前に何も説明せず、単に消費者として、好きなチョコレートを選ばせた。その結果、クラスの半数近い18名がダースを、7名がフェアトレードチョコレートを、5名がアグロフォレストリーチョコレートを選んだ。ダースを選ぶ理由は、「安い」「食べたことがある」「おいしい」「知っているから」という意見が多く、フェアトレードチョコレートでは「高いから良いカカオを使ってそう」、アグロフォレストリーチョコレートでは「高すぎるとためらう、安すぎるとおいしくなさそうで、中間だったから」「ブラジル限定のカカオ豆を使っているから」などという意見が出された。また生徒たちはパッケージにも興味津々で、アグロフォレストリーチョコレートの箱の触り心地が良いという意見や、牛やカカオの絵について話す様子も見られた。

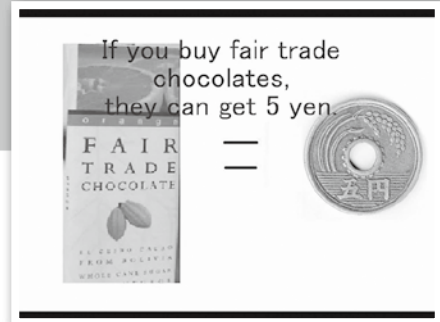
◆所感◆ 身近にあるものではあったが、原材料を見るのは初めてのものが多く、カカオ豆では「こんななん？」という反応が多かった。1時限目のモノランゲージでカカオ豆を観察したときにわかった酸っぱい匂いの原因が発酵にあることを知り、自分で匂いを体験していた生徒たちにとってはとても興味深い反応を示していた。

4時限目：私たちにできることは？

ねらい…日本が輸入に頼っている現状を知る。
児童労働・環境問題について考える。

👉👉がポイント!

▶ チョコレートを通して世界の問題と日本との関わりについて考え、解決に向けてのさまざまな取り組みを知る。



③の映像の一場面



④農園の映像を見て考える。



⑤アグロフォレストリーについて学ぶ。

◆内容◆

- ① クイズ…日本のカカオ豆の輸入量、カカオ豆の生産国について学ぶ。
- ② 世界が100人の村だったら（ガーナのカカオ農園）の映像
- ③ フェアトレードチョコレートについての映像を見る。
- ④ 小長野農場の映像を見て、気付いたことを書く。
- ⑤ アグロフォレストリー農法についての JICA の映像を見る。
- ⑥ 小長野さんのインタビュー映像
- ⑦ 3種類のカカオ豆生産の現状を知ったうえで何が大切か、自分たちに何ができるのかを考える。



⑥小長野さんの話を聞く。

生徒の
反応

【ガーナのカカオ農園の映像の感想】

- ▶ カカオを取っているのは子供たちだと知って、自分が何気なく食べているチョコは自分より小さい子が頑張って働いたからこそ食べることができると感謝しました。
- ▶ 私たちがご飯を食べて学校に行けるのを当たり前思わず、感謝しないといけないんだなと思った。

【小長野さんの話を聞いての感想】

- ▶ カカオを作るにはいろんな自然のことを考えて作ってるんだなと思った。
- ▶ 自分の子どものように（カカオを）育てている。
- ▶ 森を大切にしたり、自分の体を清潔にするみたいに作っているのすごいなと思った。

◆所感◆

児童労働に対する取り組み、自然に配慮した農法など、課題に対するさまざまなアプローチを紹介した上で、もう一度チョコレートを選ばせたら、ダースかフェアトレードチョコレートを選ぶ生徒がほとんどであった。小長野農場の映像はとても興味深く見ていたが、環境への取り組みより、同じ年代の子どもが働いているという映像の方が印象に残ったようだ。ブラジルの環境問題というテーマで授業を構成したら、また見方が変わり面白いかもしれないと感じた。

5時限目：日本と世界のつながり

ねらい…自分たちにできることを考える。

日本の中の多文化に気付き、多文化の難しさを考える。

◆内容◆

- ① マッチング…ブラジルで働いている日本人・日系人と仕事のやりがいカード
- ② 世界で働くことのメッセージ（映像）
- ③ どっちがブラジル？どっちが日本？…日本の中にあるブラジルを知る。
- ④ クイズ…日本にいる外国人の現状を知る。
- ⑤ 多文化であることの良さ・問題点について考える。

 ココがポイント！

▶ ブラジルにいる日本人、日本にいるブラジル人を通じて、共に生きることについて考える。

4. 成果

今回の研修を通して、他の参加者と話し合うことで多くのプラスの意見が出たり、一つの物事を見るときに様々な見方や捉え方があることを感じたことが自分自身にとっての大きな刺激となり、成長につながったと私は感じている。そのため、授業では、単にブラジルを紹介するのではなく、話し合うことや見方を変えること、様々な意見があって面白いという雰囲気作りを大切にしたい。またブラジルについて私が語るのではなく、生徒が自ら考え、話し合い、感じる・得ることができるようテーマや授業内容、活動を考えた。生徒同士でさまざまな意見を出し合ったり、予想しない反応を返してくれる姿を見ることが喜びとなり、どのようなことを感じてくれるだろうと考えながら授業案や教材を作ることが楽しみであった。できるだけ多くのクラスで授業をさせてもらうことで、普段担当していない生徒との関わりを持つことができ、またクラスによっても反応が異なることもあり、とても面白く貴重な経験になった。授業時には他の先生方にも参加していただき、中には「いつか教師海外研修に参加したい」という同僚もいた。ブラジル滞在中もすばらしい出会いと経験だったが、参加型の開発教育実践を考えることができたことも、そして実践後に生徒たちが「ブラジルに行きたい」「今度ブラジルの授業いつ？」などと言ってくれたこと、授業中の生徒たちのいきいきとした様子を見ることができたこともまた良い経験になった。今回の経験を糧に、今後も継続して開発教育の実践に携わっていききたいと思う。

5. 課題

今回は「つながり」というテーマでブラジルの授業を行ったが、紹介できたのはブラジルの一面に過ぎない。にもかかわらず、今回紹介したことがブラジルの全てであると捉えられる可能性もある。今後は、環境問題・貧困・経済発展など違うテーマを取り上げたり、ブラジルに限らず世界のさまざまな国の様子を題材に、生徒たちの価値観を広げ、世界に目を向けさせていきたいと思う。